

(別紙)

様式第 1 号(第 5 条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 7 年度 第 3 回美幌町総合計画審議会
開 催 日 時	平成 2 7 年 6 月 2 日 (火) 1 8 時 3 0 分 開会 2 0 時 0 3 分 閉会
開 催 場 所	しゃきっとプラザ会議室 1
出 席 者 氏 名	委員 清野委員、若林委員、観野委員、平田委員、早田委員、 宮田委員、大関委員
欠 席 者 氏 名	三坂委員、森委員、工藤委員、西島委員、
事務局職員職氏名	平井総務部長、那須総合計画主幹、竹下総合計画担当主査、
議 題	1 開会 2 策定経過について 3 基本構想素案について 4 その他 5 閉会
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	2 名 (報道機関)
会 議 資 料 の 名 称	・レジュメ ・第 6 期総合計画策定経過について ・基本構想素案について
会議録の作成方針	■録音テープを使用した全部記録
	□録音テープを使用した要点記録
	□要点記録
その他の必要事項	

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
若林会長	開会 定刻になりましたので、これより平成26年度第3回美幌町総合計画審議会を開催いたします。本日も、前回と同じく現在策定中の第6期美幌町総合計画に係る策定経過などについて事務局から説明を受けるものであります。開催に先立ちまして、委員の変更について、事務局より報告があります。
那須総合計画主幹	配付しておりますレジュメの裏面をご覧ください。審議会委員一覧が掲載されておりますが、前回の会議からお二人変更されておりますのでご報告申し上げます。 まず、美幌町森林組合代表理事組合長の観野壽雄様です。観野様におかれましては、美幌町森林組合の役員改選に伴い、新たな組合長として就任されました。前任の小寺様に引き続き、審議会委員として参画していただきます。 続きまして、美幌町自治推進委員会の旭瑠子様です。美幌町自治推進委員会からは、稲垣委員が参画いただいておりますが、先の統一地方選挙におきまして美幌町議会議員に就任されたことにより、自治推進委員会委員の辞任の申出があり、それに伴い、自治推進委員会から、その後任として、旭様のご推薦をいただいたところです。どうぞよろしくお願いします。
若林会長	ただ今事務局より報告がありました。今年度よりお二人が新メンバーとなります。どうぞ、よろしくお願いします。それでは、配付してございますレジュメの次第に沿って進行して参ります。 策定経過について、事務局より説明願います。
那須総合計画主幹	策定経過について 書類番号1をご覧くださいと思います。各種会議の開催経過について報告します。 本部会議については、副町長、教育長、部局長等で構成する本部会議につきましましては、昨年の4月から、策定経過の報告、策定にかかる協議、基本構想骨子案についての協議などを行ってきており、先月4月に開催しました。第9回会議では、本日報告します「基本構想素案」について協議したところです。 『びほろ』みらいまちづくり会議について、団体推薦及び公募による40名で構成する『びほろ』みらいまちづくり会議は、月1～2回開催しています。 第1回から第5回会議では、ワークショップ形式等により基本構想の骨子を策定するための議論を実施し、第5回会議でその骨子が決定したところです。 第6回会議からは、総務・民生・経済・建設・教育の5部会で、それぞれ項目別に基本計画の議論を行っております。 第12回では、本部会議で協議した「基本構想素案」についてお諮りし、決定しました。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 那須総合計画主幹	第13回からは再び基本計画の議論を行っており、これらは6月中を目途に終了する予定となっております。 全体では7月を目途に案を確定させ、それをもって、こちら総合計画審議会では本格的な議論を開始する運びとなります。 続いてこちら美幌町総合計画審議会についてです。審議会は、『びほろ』みらいまちづくり会議が策定した素案に対し審議し答申する、町の附属機関です。レジュメに名簿を掲載しておりますが、公募委員を含む12名で構成しています。現在まで、策定経過等を適宜説明しております。 こちらには記載しておりませんが、町民アンケート・中高生アンケートの実施、子育てサークルや美幌駐屯地・美幌小学校への出前ヒアリングや、まちづくり会議と審議会委員を対象にした施設見学会タウンウォッチングなども開催しております。 以上が経過説明です。
若林会長	第4回の会議でまちの財政について説明を行っているが、厳しい財政状況を説明して、新しい施策提案等を萎縮させるようなことになっていないか。
竹下総合計画担当主査	まちの財政状況は、現在実施中の財政運営計画の説明などを行いました。説明は財務主幹が行いましたが、今懸念されたようなことにならないよう、留意して説明したところです。 説明によって、萎縮したようなことはないと思います。
若林会長	他に何か質問などありますでしょうか。 (質疑なし)
若林会長	続いて、基本構想素案についてです。基本構想素案については、今日の会議開催案内に同封していると聞いておりますが、皆さんお持ちでしょうか。 それでは、事務局より説明します。
那須総合計画主幹	<u>基本構想素案について</u> 先にお送りしております「第6期美幌町総合計画基本構想素案」をご覧頂きたいと思います。 はじめに説明をさせていただきますが、この基本構想素案については、現時点でのものでありまして今後、人口の指標等が入りまして完成ということになります。 また、総合計画としては、この基本構想の他に現在策定している「基本計画」というもう少し具体的な内容のものが、それらが合わさって、全体の総合計画となりますので、全て揃った段階で、この審議会に「諮問」という形をとらせていただきます。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
那須総合計画主幹	よって、今日はあくまで策定経過の説明ということで、捉えていただければと思います。 こちらは「基本構想素案」となっておりますが、基本構想の骨子については、本年1月14日に開催しました第5回のまちづくり会議で、承認いただき、こちら審議会でも前回1月30日に内容の説明をさせていただきました。その後、骨子の項目に説明等を加えて、人口目標値以外の内容についてとりまとめる「素案」について、本部会議での協議を経て、4月開催のまちづくり会議で承認を得たところです。 1枚めくると目次が掲載されています。骨子の説明時に全体の構成についても説明しておりましたが、若干変更しておりますので、改めて説明させていただきます。 基本構想は大きく、「はじめに」とする導入部分と、将来像・人口指標・基本目標からなる「基本構想」で構成しております。 「はじめに」は、総合計画の策定趣旨や構成・期間、また、美幌町の概要や取り巻く環境、アンケート結果からなる町民の意向等について、そして、まちづくり会議で議論してきましたまちの課題について、となっております。 「基本構想」は、まちづくり会議で議論しました、まちの将来像と基本目標、そして人口の指標となっております。 これから順次説明をしてまいります。この素案は先に報告した骨子に説明等を加えたものです。一部説明が前回と重複することになりますが、ご容赦ください。 また、かなりボリュームがありますので、「Ⅰ はじめに」のところで一旦区切りまして、そこまでで質疑等あればお伺いし、その後、引き続き「Ⅱ 基本構想」について説明をして参ります。 1ページめくっていただきたいと思います。 1 策定の趣旨を掲載しております。美幌町総合計画は、昭和41年を初年度として、第1期計画を策定して以来現在進行中第5期まで、計画が策定されてきました。 総合計画は、従前は地方自治法によって策定が義務づけられておりましたが、中段の「このようななか」から記載のとおり、平成23年度の地方分権改革に伴い、策定の法律上の義務はなくなりましたが、本町ではまちの憲法とも言われる「美幌町自治基本条例」で、策定することを義務づけました。 よって、第6期は、自治法上の策定義務撤廃後、また、美幌町自治基本条例制定後初めての総合計画となります。 1ページめくり、2 総合計画の構成と期間です。総合計画は3階構造となっております。 上段が基本構想です。こちらは、「美幌町内外の現状、全体的な町の課題をふまえ、計画期間内に町のめざすべき将来像や、まちづくりの目標など」を定めるもので、今ご覧いただいているこの素案が、これにあたります。また、議会の議決を頂く事項も、この部分となります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 那須総合計画主幹	中段が基本計画です。こちらは、「まちづくり分野ごとに、現状と課題を示したうえで、基本構想を実現するために取り組む内容」となっておりまして、福祉や経済や教育などの各施策を分野別に体系化するものです。総合計画は、基本構想と基本計画で構成されます。 これ以外に別途行政が「基本計画で示した内容を具体的に進めるための内容」を示す「実施計画」を定めることとなります。 下の図は計画期間を表しています。第5期までの総合計画は10年計画でしたが、第6期以降ではローカルマニフェスト、即ち町長の政治公約を総合計画に反映させるために、町長の任期期間と総合計画の期間を合わせることで、前中後が各4年で12年間の計画とします。ただし、現在策定中の第6期では、ご存知のとおり本年が統一地方選挙でしたので、調整のため前期を3年とし、計11年間の計画となります。 また、事務事業を掲載する実施計画については、常に向こう3年の計画を立て、実施していきます。 1 ページめくりますと、3 美幌町の概要です。立地、沿革、産業などについて記載しています。農業や林業、陸上自衛隊美幌駐屯地のこと、交通の要衝であることなどに触れています。 1 ページめくりますと、人口の動向について記載しています。グラフは、直近の平成26年以外は、国勢調査の数値です。昭和60年から人口減少傾向にあることや、高齢者の比率が増える一方若年者の人口比率が減少していること、1 ページめくりまして、世帯数については核家族化により人口減少に比例していなかったものの、平成22年の国勢調査から初めて減少傾向に転じていることを分析しています。 1 ページめくり、就業人口についてです。人口と同じく昭和60年がピークになっていることや、長期傾向では一次産業の就業者が減少し、三次産業が増加している傾向にあることを記載しています。 1 ページめくり、4 美幌町を取り巻く環境についてです。 これは、美幌町を取り巻く国内外の現状及び地方自治全体に求められている事項について、4つにまとめたものです。 一つ目が、人口減少の進展と超高齢社会の到来について。下のグラフは日本の総人口の推移と推計です。平成22年国政調査をピークに人口は減少していきますが、高齢化率は上昇していきます。人口減少に歯止めをかけるため、国は、平成26年「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、45年後の2060年に1億人程度の人口を確保することを目標に掲げました。また、東京圏への人口集中を是正することも目的としており、地方自治体にも具体的な取り組みが求められていることを記載しています。 1 ページめくりまして、二つ目が情報化、国際化の広がりについてです。情報通信技術の進歩により、様々な分野での活用が期待されていること、また、交通網の発展により、交流の機会が増えていることと、その対応についてなどを記載しています。 続いて三つ目の「安全」「安心」を願う気持ちの高まりについてです。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 那須総合計画主幹	経済面や老後の生活不安や、近年発生している大規模災害・異常気象による防災面や環境面での安全安心が求められていること、また、北海道の優位性を活かすことなどについてなどを記載しています。 1 ページめくり、四つ目の「地方自治」の更なる推進についてです。地方自治の推進により、住民自治を条例等によって明確に位置付けする自治体も増えてきております。美幌町も例外ではなく、平成23年に施行しました美幌町自治基本条例において、町民主体の自治を実現することを目的にしております。 課題として、実情に沿ったまちづくりを進めるため、より多くの住民の皆様の声を聞き、反映させていくこと、そして、地域住民との連携が、今まで以上に重要であることなどを記載しております。 1 ページめくり、5 町民の意向と評価についてです。先に実施した町民アンケート及び中高生アンケートの結果のうち、特徴的な結果となったものを記載しております。 (1) 住みごころ につきましては、「住み良い」が26.1%、「どちらかといえば住みよい」が58.4%で、合計で84.5%となり、約85%の方が住みごころを肯定的に評価されています。 (2) 定住の意向 につきましては、今の場所に住み続けたいが72.4%、移りたいが17.6%で、住んでいる方の約70%が町内に定住意識を持っていると言えます。 1 ページめくりますと、住み続けたいとそうではないそれぞれの理由を掲載しております。 住み続けたい理由のうち、美幌町の特徴的な意見としては、「自然災害が少ないこと」や「日常生活が便利」などが回答されました。 反対に町外に移りたい理由のうち、同じく美幌町の特徴的なものとしては、「医療や福祉面が不安」や「働く場所がない」などが回答されました。 下段の(3)「将来の美幌町に望む姿」については、「健康で安心して暮らせるまち（保健・医療や福祉が充実したまち）」が最も多く回答されました。ちなみに、これらアンケート結果ですが、他の設問に係る集計結果につきましては、HPで全文掲載しているほか、先にお配りしております「美幌町まちづくり白書」に部門ごとに掲載しております。 1 ページめくると、6 美幌町の課題を掲載しています。 課題は6項目に整理しております。前回の会議の際にもご説明しましたが、これら課題は、町民アンケート等からの分析結果や、まちづくり会議で議論された内容を整理し、最終的にまちづくり会議で承認を得たものです。 (1) 若い世代も住み良さを実感するまちづくり は、先ほど町民の意向と評価のところでも説明しましたとおり、住み続けたいという回答が多かったのですが、若い世代は比較的定住意識が低い結果となっています。その理由の具体的な意見では、子どもを産む環境や若い世代が集まる場や機会が少ないという声がありました。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 那須総合計画主幹	そこで、子育て支援の他、若い世代が美幌町での生活を楽しめる環境をより一体的に向上させ、美幌町に住み続けたい、住みたいと思う若い世代を今よりも増やしていくことが必要だということを記載しています。 続いて、(2)「住み良い＝住み続けたい」となるまちづくりは、同じく先ほど町民の意向と評価のところで説明しました「住みごこち」と「住み続けたい」との関係性についてです。住みごこちが良いと思う方の割合が約85%なのに対し、住み続けたい方の割合が約70%と開きがあります。 一般のアンケートの結果ですが、次のページでは、同じ設問の中高生アンケートの結果について掲載しております。中高生の方がこの差が大きくなっています。住みよさを感じていただいている方への定住意識を高め、人口流出を防ぎ、子どもから大人まで住み続けたいと思う人が増えるまちづくりが必要と記載しております。 続いて、(3)町の特長を再認識し、より高めることで、まちの活力や誇りに結びつけるでは、美幌町の良さやウリとして空港が近く市街地に国道が4本通り、道東の交通の要衝になっていることや、農作物が豊かなことなど町の特長が評価されていながらも、一方で特長を活かして経済効果が特に期待できる観光の問題点や食を活かした特産品開発や売り方の工夫などが求められています。既にある地域の資源を積極的に魅力アップに繋げること、そして、次のページでは、町内に向けて特長を伝えることについて記載しています。 続いて(4)長生きを楽しめるまちづくりです。長生きを楽しめるまちづくりは、現在進行中の第5期総合計画の将来像でもあります。特に健康づくりについては、しゃきっとプラザを拠点とした取り組みを推進しており、町民アンケートの満足度の項目では、保健・医療・福祉分野で満足度が最も高かったのは「健康づくりや病気予防」でした。考え方や取り組みが徐々に浸透していると認識しております。 第6期では、これまでの取り組みに加え、世代を超え、心身共に長生きを楽しめるまちづくりを進めていくことを記載しております。 続いて、(5)まちづくりを支える人を増やし、効果が発揮されるようにすることで、マンパワーを高めるです。美幌町では、学習や福祉活動が多く町民ボランティアによって支えられております。 今後、若い世代が減少していく傾向にあることから、担い手不足が懸念されています。一方で、アンケートの結果では、福祉ボランティアを希望する60代の方や、子育て支援活動を希望する中高生が多くいることも解りました。次のページですが、幅広い世代からの積極的な参加、また、活動を促進する推進体制等について進めることを記載しています。 最後に、(6)知恵を出し合って課題を解決していく力を高めるで

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 那須総合計画主幹 若林会長 平井部長 大関委員 若林会長 大関委員 平井部長	す。町内の各組織における連携の強化、また、「自立と協働」を基本にして情報の共有化を図り知恵を出し合い、課題を解決していく場面が多く見られるうちに、さらには多くの皆さんの声を大切にするについて記載しています。 ここまでが「Ⅰ はじめに」についてです。 ただ今事務局よりⅠ はじめに について説明がありました。私からお聞きしたい。 アンケート等のデータだが、高齢化ということがことさら強調されているが、平均寿命も延び年齢だけで高齢化というのはどうなのか。非常に元気なお年寄りもたくさんいる。高齢化は悪いことだけではない。 アンケートの「美幌町に住みたい」だが、転勤族の子育て世代のアンケートでは非常に住みにくいとなっている。乳幼児の医療費の無料の年齢が低い、スポーツ施設が非常に不足しているなど。これは、出て行きたい人達のアンケートの結果に表れている。 住みたい人の子育て世代にも教育の環境、医療や福祉、スポーツや文化活動に対して不満がある。美幌町は充分では無いがボランティアが多いなどいい所はたくさんある。余所を知っている若い母親と住み続けている母親の不満を比較していくと色々見えてくると思うが。 良い所は維持し、そういう所をどういう事業を組立、弱い所に力を入れていくかをまちづくり会議で議論しています。 高齢者から、美幌が良いから最後まで美幌に居たいとよく聞くが、一人になった時、買い物や食事の支度が出来ないし夜が不安なので札幌や北見で生活している子供の所に行ってしまう。出産ばかりが人口増ではなく、高齢者の流出を防ぐ事をしなければならない。そのために美幌にもケアハウスや低所得でも入れる福祉寮などが街中にあればいいと思うが、町単独では難しいと聞いている。 国民年金だけの生活は苦しい。子供達はこの町に居なく子育て中で仕送りをしてくれる余裕がない。施設に入ったら年金全てを使ってしまう。デイサービスを利用し、病院などにかかる10万の年金では足りない。この町に住みたいが生活していく事が出来ない。早くケアハウスを作りたいと言われている。 ケアハウスなどの視点は商業の会議からは見えない。札幌などにいける人はまだ良い方で、本当にどこにも行けない人が結構居るので盛り込んでいいと思う。 施設に入ると環境が良いせい長生きをしている。その分、空きがなくなっている。 そういった声があってどういう事業が必要か議論しています。別途高齢者福祉計画もあるので必要な事業は盛り込んでいくこととなります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
若林会長	パークゴルフ場を作るお金を使えばいい。パークゴルフ人口が減っているしもういらないと言っている。そのうち若者から違う施設に使って欲しい、と声があがるのでは。市民の声を聞くべき。
若林会長	続きについて、事務局より説明します。
那須総合計画主幹	16ページをお開きください。ここからが「Ⅱ 基本構想」についてです。 まずは将来像についてです。将来像については、まちづくり会議において議論し、この案を決定しました。将来像のフレーズは「ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ」です。 このフレーズには、こちらに記載しているように、今日まで発展を遂げてきた美幌町が、日本全体が人口減少時代を迎える中、人や環境をより重視したまちづくりが求められており、先人から引き継いだ地域の資源や環境を大切に守りながら地域の力としていくとともに、人の輪や交流を今まで以上に大切にし、「人が育つ」「人が中心」のまちづくりを進めること。そして、次の世代へと繋げていき、住んでいる人が誇れるまちを目指していくこと。そういった意味が込められております。 1ページめくり、2 人口の指標について です。 こちらには、人口の推移と目標値とその説明が掲載される予定ですが、その目標値につきましては 地方創生に係る美幌町長期人口ビジョンにおいて示す人口目標値と整合を図ることから、それが決まり次第 こちらに掲載することとなります。 1ページめくり、3 基本目標についてです。これも、まちづくり会議において議論し、決定しているものです。 まちづくり会議は、分野に分かれて議論しております。 美幌町の組織機構に合わせた「総務」「民生」「経済」「建設」「教育」の5つの部会です。その部会ごとに、それぞれの基本目標を立てております。また、第6期では初の試みとして、その目標をイメージする漢字1字を定めることとし、これも各部会で議論し決定しました。それぞれの目標を説明して参ります。 1ページめくりますと1つ目です。こちらは総務部会において決定した内容です。漢字が「創」、目標が「人を創り、地域力を高めるまちづくり」です。安全安心な環境づくりについて、コミュニティ機能の強化と人材育成について、多世代等の交流によって人の輪をつくっていくこと、情報共有と課題解決についてなどを記載しました。 2つ目です。こちらは民生部会において決定した内容です。漢字が「護」、目標が「自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり」です。自然環境保全とリサイクルの推進について、保健・医療・福祉の連携充実と心身の健康づくりについて、子育て・高齢者・障害者福祉について、地域での支え合い、ボランティア活動支援についてなどを記載しました。 1ページめくり、3つ目です。こちらは経済部会において決定した内

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 那須総合計画主幹	容です。漢字が「活」、目標が「まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり」です。基幹産業を活かした経済発展について、雇用創出と起業支援について、活気あるまちづくりについて、特長を活かした観光振興について、地域資源の活用・地産地消についてなどを記載しました。 続いて4つ目です。こちらは建設部会において決定した内容です。 漢字が「集」、目標が「住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり」です。交通の要衝やコンパクトシティである強みを活かしたまちづくりについて、ユニバーサルデザインの推進について、施設の適切な更新や集約について、子ども達が安心して集まれる環境づくりについてなどを記載しました。 1ページめくり、5つ目です。こちらは、教育部会において決定した内容です。漢字が「育」、目標が夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり」です。学びや夢を育む様々な体験について、地域での子どもの成長・見守りについて、体験などによる美幌町の特色ある教育について、幅広い世代への学習機会の増加について、次代を担うひとを育てる人づくりについてなどを記載しました。 以上が基本構想の説明です。よろしくお願いいたします。
若林会長	ただ今事務局よりⅡ 基本構想 について説明がありましたが、何か質問などありますでしょうか。
早田委員	宿泊施設の少なさが目に付くが、宿泊施設の問題はまちづくり会議で議論されているのか。
那須総合計画主幹	まちの課題として、宿泊施設が少なく宿泊客が町外に流れているなどの意見がありました。基本計画の中にどのような形で盛り込んでいけるか議論をしている最中です。
若林会長	町がホテルを建てるのは難しい。ユースホステルの有効活用や温泉の余っているスペースをちょっと泊まれるようにするなどお金をかけなくてもやれる事がある。民間企業の足を引っ張らないような施設を作るべき。第1次産業や第6次産業は大事。 自衛隊をもっと補充していくように。 観光がはっきりしないので観光に力を入れ、移住人口や定住人口増やす政策など後押しをすると良い。現在商工会議所を中心にまちづくり会社でお金を集め、町を賑わせようとはしている。
早田委員	そこに繋がるように起爆剤として美幌町に泊まってもらって気に行ってもらえて何回も来てもらえれば、まちづくりにも新たな可能性が膨らむ。
若林会長	みんな美幌に泊まらず北見や網走へ行ってしまう。美幌に泊まってくれたら美幌で食事してもらえてお金が落ちる。宿泊施設は大事。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
早田委員	美幌町は、飲食店が強いので、宿泊施設がある程度充実すると方向性も変わってくる。
平井部長	確かに美幌町は飲食店が人気です。来てくれるだけでもありがたい。
早田委員	100%ではなくても少しずつでも実行に移せばよい。
宮田委員	将来像に「ひとがつながる」とあるが、美幌町内だけなのか町外との連携も含めての人のつながりなのか。人の輪を広げるのは町外の人も含めきつけるという意味もあるのか。
平井部長	これからは、そういうまちづくりが必要と考えています。選択肢の中に美幌が入るには、他方との繋がりも大切です。通過した美幌で食事をした事をきっかけに毎年ふるさと納税をしてくれる方もいらっしゃいます。ちょっとしたきっかけで住んでみようと思われる仕掛けをしていければと思います。 ただ、仕事や教育、子育てを充実させなければ来たくても来られない若い世代が多いのも事実です。転入者を増やすのは積極的な政策です。PRし色々な政策を打ち出し広い意味で繋がっていく事が大切だと考えています。
那須総合計画主幹	人が多く行き交う町、全国から集まるようなイベントがあるなどのニュアンスがあり、町外も含めてという意味があります。
若林会長	地方で連携した観光をしなければならない。美幌は抜けている事が多い。転出が多いと言っていたが、役場の職員が退職後に出て行かない様にするべきだ。
清野委員	前回の意見が反映されていない。大胆な発想をしていかないと町は生き残れない。産業が発展しない町に誰も残らない。地域から産業を興すくらい行政がしっかりしないと。産業を興してまちづくりをするのか、とことん福祉を充実させるのか。どっちつかずの基本構想だけは止めて頂きたい。
若林会長	インパクトを強く、偏っても良いという事。自衛隊は最大の企業誘致。駐屯地が無くなるかもしれないという危機感を持つことが大事。 就農人口が減っているが、北海道の農業に興味をもっている若者は多い。若者を応援し、歓迎して受け入れる。特長ある計画にするべき。平均的な計画では生き残れない。
清野委員	使っていないホテルで福祉事業を行うなど、100人のお年寄りを扱い3人位若い世代に手伝ってもらいなど、きちんとビジョンを示していないと埋没する。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
若林会長	民間の宿泊業が撤退する際、建物は貰えないのか。
早田委員	頼んでホテルを誘致出来ないのか。
清野委員	美幌町はホテル業界にしたら魅力が無いのだろう。なせ、そのようになっているのか認識が必要。ホテルを建てても集客が見込めない。
若林会長	旅館業が衰退していった時にペンションなどにして集客して繋いでいたらホテルは建っていたかもしれない。何もせずに眺めていた。もったいない。
早田委員	空港から来て、町並みやうっそうとした森が喜ばれている。
若林会長	郊外は良いが町並みは悪い。新しくしたいがお金の問題が必ず出て来る。富良野はペンションが多い。地元の人達の協力で建った物もある。
大関委員	峠にペンションはどうなのか。弟子屈、川湯はほとんどの旅館が閉まっている。
若林委員	旅行会社では、旅行費が安く済ますため燃料が掛かるからと敬遠される。
観野委員	自衛隊を非常にあてにしているが、国の政策でソ連の脅威は無いという事で隊員の移動がかなりある。国全体の事なのであてにするのはどうか。
若林委員	ソ連の脅威は無くなっていない。広大な敷地があるから訓練施設としての利用価値がある。防衛予算も増え、隊員も増えている。なり手の問題はあがるが。
大関委員	訓練に使うには住みよい町が必要。退職した人が残る町にして欲しい。
若林委員	101特科がなくなると、急速な人口減少になってしまう。その為にも自衛隊は必要。
観野委員	みらい農業センターのおかげで定住する人も増えた。その人達がリタイヤした時に離れたり、違う職種をしたりとするケースが結構ある。自立出来るような取り組みはないのか。
清野委員	農業者は考え方や生き方が違うので、新規就農者は順応して、周りの農業者の話をよく聞いて欲しい。

